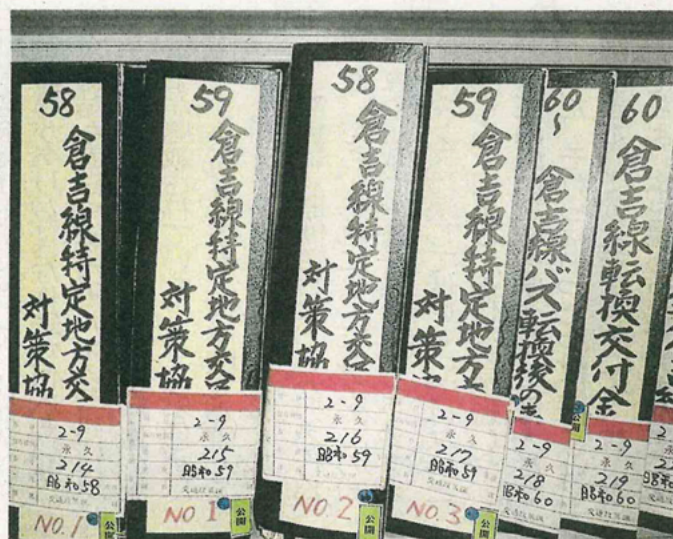


公文書引き継ぎと評価選別



公文書館の書庫に保管している歴史的公文書の簿冊の一部(国鉄倉吉線の廃止に関するもの)

公文書館には現在約5万9千冊の簿冊が保管されています。簿冊とは公文書を1冊のまとまりとして編綴したものです。簿冊には保存期間が定められており、担当部署で保存されたのち、歴史的に重要と判断されたものが公文書館に引き継がれます。毎年県全体で作成される3、4万冊程度の簿冊のうち約千冊、率にして2〜3%になります。今回は多くの簿冊の中から

公文書館に引き継ぐ簿冊を「評価選別」についてご紹介します。

県ではまず、保存期間が満了した簿冊の一覧表をホームページで公表し、廃棄してよいか県民の皆さんの意見を伺います。公文書館は県の担当部署に簿冊の引

など評価選別の基本方針にのっとり判断します。必要に応じて簿冊の中身を一冊ずつ確認し、数回の選別会議と各部署との意見調整を経て、最終的に引き継ぐ簿冊が慎重に決定されます。

一冊ずつ中身を確認して引き継ぎの可否を検討する作業は大変ですが、以前自分が担当した業務の簿冊が引き継がれていると、懐かしさとともに自分の仕事の後世に伝えられるうれしさを感じます。

将来にわたって県民の皆さんに必要とされ、利活用される歴史的公文書の選別は難しく時間がかかりますが、現在および将来の県民に県の諸活動を説明する責任を果たすための、とても重要な仕事です。

(公文書担当・蟻坂亮子)
(月1回掲載)